

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート										No.	35-1
PDCA	主要事業名		新美南吉童話賞事業		部課名		教育部 博物館(新美南吉記念館)		担当 内線	稲垣 26-4888	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 2 単位施策： 文化の振興と継承										目標項目(予算計上時に作成) 予算見積書で活用
	全体事業期間： 令和 6 年度 ~ 6 年度 全体事業費等： 3,919 千円										
	会計		一般会計		歳出科目： 09.05.07.05.01						
	事業概要等	事業概要： 自由創作部門と新美南吉オマージュ部門の二部門で創作童話を広く募集し、一次・二次審査を経て優秀な作品を表彰する。令和6年度から郵送・持参に限っていた作品の応募方法にロゴフォームを加える。受賞作品は入選作品集「赤いろうそく」として発刊、全国の図書館や関係各所へ配布する他、記念館で直接販売や通信販売も行う。									
		事業目的： 南吉作品の普及と南吉顕彰を進め、ふるさと半田への関心を深めるとともに、児童文学の振興に寄与する。									
		事業内容： 新美南吉童話賞の応募数増を期したPR、情報発信及び入選作品集「赤いろうそく」の充実とともに、将来も持続可能な審査体制の確保に取り組む。									
		問題点・課題等： 創作の楽しさと南吉作品の魅力をさらにPRすること、また持続可能な審査体制を確立する必要がある、									
	予算額	主要事業とする理由									
	3,919 千円	新美南吉記念館の対外的事業として、投入する労力・予算両面において、企画展と童話賞を2本柱としているため。本事業は令和6年度より新たな取組みとしてロゴフォームでの応募受付を始める。DX化を進める。									
	財源内訳	得られる成果									
市費 2,678 千円	多くの方が新美南吉と作品及び南吉のふるさと半田への関心を持ち、児童文学の振興へと繋がる。										
国費 0 千円	目標値や目指すべき状態		令和4年度		令和5年度		令和6年度		単位		
県費 0 千円	新美南吉童話賞応募数	実績値	1,841		1,569		1,637		編		
		目標値	2,000		2,000		2,000		編		
その他 1,241 千円		実績値									
		目標値									
		実績値									
		目標値									

D 得られた成果と実績値	決算額	得られた成果									主要施策の成果報告書で活用 評価項目(決算時に作成)
	3,882 千円	応募数が昨年度より増加し、今年度から導入したロゴフォームによる応募数が462編と全体の約3割を占める結果となった。中でも20代~30代は約8割がロゴフォームによる応募であり、若年層の当童話賞への応募促進と南吉顕彰に繋げることができた。									
	成果指標				令和6年度		単位				
	新美南吉童話賞応募数	実績値		1,637		編					
		目標値		2,000		編					
C 課題の整理	事業の評価・課題	C 応募数が昨年度より増加し、今年度から導入したロゴフォームによる応募数が462編と全体の約3割を占める結果となった。特別審査員よりオマージュ部門の作品が今までとは違った作品が見られると評価をいただき、最優秀賞はオマージュ部門より入選することとなった。また、昨年度に引き続き、入選者18名のうち市内から3名の方が入選し、市民からの応募も安定しているが、応募数の割合は多くないため、引き続き応募促進のための取り組みを行う必要がある。									
		改善推進 応募資格について「商業的に出版したことのないアマチュアの方に限る。」としていたが、令和7年度(第37回)より「アマチュアの方に限る。」に変更する。これにより、比較的出版が容易な電子出版の経験者による応募が可能になり、応募数の増加が期待される。さらにSNSやインターネットを利用した周知活動を行うことにより、応募数の増加、南吉作品の普及と顕彰につなげる。									
A 課題の方向性	今後の事業の方向性										
	観点別評価	必要性		有効性				効率性			
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献		大きい		⑦コスト削減余地		ない	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地		ある		※対象・手段の変更			
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無		ない		⑧受益者負担適正化余地		ない		

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	35-2	
PDCA	主要事業名	企画展開催事業	部課名	新美南吉記念館	担当 内線	三輪 26-4888	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 2 単位施策： 文化の振興と継承					目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用	
	全体事業期間： 令和 6 年度 ～ 6 年度 全体事業費等： 3,314 千円						
	会計 一般会計 歳出科目： 09.05.07.07.01						
	事業概要等	事業概要： 南吉の魅力発信のために、時宜的な話題を捉え、南吉とその文学をテーマに企画展・特別展を開催。令和6年度の特別展は、“南吉の読書”をテーマに、人気ゲーム「文豪とアルケミスト」とタイアップを行い新しい客層を開拓する。またレイチェル・カーソンと南吉に通じる思想をテーマにした企画展、開館30年を振り返る企画展など、多様な切り口で展示を行う。					
		事業目的： 常設展示とは違う視点で南吉とその文学を取り上げた企画展や特別展を開催することで、新たな魅力を感じてもらう。					
		事業内容： 4～7月に南吉とセンス・オブ・ワンダー展、7～10月に特別展「南吉と読書」、10～1月に開館30年企画展、1～3月にペーパーアート展を開催する。					
		問題点・課題等： 特別展はプロポーザル形式でアイデアとデザイン性に優れた企画案を得ているが、落選業者にはリスクが高く、参加者の確保に苦労している。					
	予算額	主要事業とする理由					
	3,314 千円 財源内訳	新美南吉記念館の対外的事業として、投入する労力・予算両面において、企画展と童話賞を2本柱としている。					
	市費 3,144 千円 国費 0 千円 県費 0 千円 その他 170 千円	得られる成果					
毎年企画展、特別展を魅力あるものにすることで、リピーター増加へと繋げる。							
目標値や目指すべき状態		令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位		
特別展1日あたりの観覧者数	実績値	217	250	-	人		
	目標値	300	300	300	人		
	実績値						
	目標値						
	実績値						
	目標値						
D 実績 得られた成果と							
決算額 3,209 千円		得られた成果					
目標値や生誕110年（令和5）の観覧者数には届かなかったものの、ゲームとのタイアップを行ったことで、これまでにない若い層の来館が見られた。また、SNSでの好反応が顕著に見られた。							
成果指標		令和6年度		単位			
特別展1日あたりの観覧者数		実績値	229	人			
		目標値	300	人			
C 課題の整理							
事業の評価・課題		C					
観覧者の目標値は高めに設定しているため、目標達成にはまだ遠い。令和6年度は、彼岸花の開花が遅れ、咲きそろわなかったことが、展示の観覧者数にも大きな影響を与えたと考えられる。観光のついでではなく、目的となるような展示作成が求められる。特別展は、新たな来館者層を発掘できたと評価できる一方で、従来の層が来館を控えた可能性がある。							
A 課題の解決に向けた							
今後の事業の方向性		改善推進					
新しい来館者層の確保に加えて、従来の南吉ファンが離れないような企画も立てる必要がある。さまざまな層から受け入れられるように、バランスよく多彩な切り口で企画を立案する。							
観点別評価	必要性		有効性		効率性		
	①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 中程度	⑦コスト削減 減余地	ない			
	②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある					
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地	ない			

令和7年度(令和6年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部博物館（新美南吉記念館）

教育部長 森田 知幸

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
35-1	新美南吉童話賞事業	C	応募数が昨年度より増加し、今年度から導入したロゴフォームによる応募数が462編と全体の約3割を占める結果となった。特別審査員よりオマージュ部門の作品が今までとは違った作品が見られると評価をいただき、最優秀賞はオマージュ部門より入選することとなった。また、昨年度に引き続き、入選者18名のうち市内から3名の方が入選し、市民からの応募も安定しているが、応募数の割合は多くないため、引き続き応募促進のための取り組みを行う必要がある。	改善推進	応募資格について「商業的に出版したことのないアマチュアの方に限る。」としていたが、令和7年度（第37回）より「アマチュアの方に限る。」に変更する。これにより、比較的出版が容易な電子出版の経験者による応募が可能になり、応募数の増加が期待される。さらにSNSやインターネットを利用した周知活動を行うことにより、応募数の増加、南吉作品の普及と顕彰につなげる。
35-2	企画展開催事業	C	観覧者の目標値は高めに設定しているため、目標達成にはまだ遠い。令和6年度は、彼岸花の開花が遅れ、咲きそろわなかったことが、展示の観覧者数にも大きな影響を与えたと考えられる。観光のついでではなく、目的となるような展示作成が求められる。特別展は、新たな来館者層を発掘できたと評価できる一方で、従来の層が来館を控えた可能性がある。	改善推進	新しい来館者層の確保に加えて、従来の南吉ファンが離れないような企画も立てる必要がある。さまざまな層から受け入れられるように、バランスよく多彩な切り口で企画を立案する。
課等長	1次評価（令和6年度の総括評価）				
B	童話賞事業では、WEB応募を導入したことで若い世代の応募意欲を高めることができた。データ入力の手で省力化にもなり、DX化の効果が表れている。 企画展事業では、観覧者数は目標値に達しなかったが、文アルファンのSNSでの発信が顕著に見られ、例年になく観覧者の反応が可視化できた。今後の企画立案や広報面でSNS活用の可能性を知ることができた点で意義がある。				
部等長	2次評価（令和6年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
B	童話賞事業においては、全都道府県から計1600編以上の応募水準を維持し、運営面でも不断の改善が図られている。 企画展事業においては、ゲームとのタイアップをはじめ、センス・オブ・ワンダーなど、多様な視点から南吉を取り上げることができた。 今後も新しい内容とアプローチにより、市民の南吉への関心を高め、事業への参加を一層促すこと。				